
神を呼び戻す旅に

百瀬 葵

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

神を呼び戻す旅に

【Nコード】

N4083R

【作者名】

百瀬 葵

【あらすじ】

一人の孤独な少女が迷い込んだ謎の世界。

其処で出会った一人の少年と、沢山の仲間達。

そして始まる”答え”への旅で。

少女は何を思い変わるのか

過去の記憶

私はずっと一人だった。

裕福な家庭に生まれ、宝石のように大切にされて育ってきた。

そんな日々は 幸せだった。

ある日、母の仕事を先で知りあったという男の人が家へやって来て尋ねた。

「お母さんは居るかな？」

その人の名前は母からよく聞いていたもので、安心しきっていた。何度も、母と三人で遊びに行く機会が出来た。

信用しきっていた、そんな日のことだった。

週に1・2回は家に来るようになっていたその人は、当たり前のように家にやってきた。いつもなら父のいない時に来るのに、この時は父が居る時だった。

私がいつものようにお出迎えに行こうとしたのを、母は止めた。

「、今夜はもうお眠りなさい」

「どうして？」

「……」

黙り込んだ母。会話が聞こえていたのかいないのか、彼がこちらを覗き込んだ。

「ちゃん、まだ起きてたの？ いい子はもう寝る時間だ。早くお休み」

そう言って穏やかに笑うその顔が、何よりも怖く思えた。変わらない筈の表情の裏に、何かを、何かが見えた。

促されるままに布団に入り、目を瞑った。

程無くして、聞き慣れた人の悲鳴と鉄の様な…血の匂い。

布団にくるまり、耳を両手で思い切り塞いだ。

怖い。今何が起きているのか、想像してしまつて。
怖い。狂つたような笑い声が聞こえる。
誰か。誰か、助けて。
此処から連れ出して欲しい。

次の日の朝、鳥の囀りで目が覚めた。
まず驚いたのは、私が生きていた事。そして、すぐ隣にあの人と
母が眠っていた事。

近くに、父を指したのである。血のついた包丁が転がっている。
違う、違う。あれは血ではないと信じたい。リビングに行けばき
つと父がおはようと笑ってくれる…。

「あら、起きたの？早かつたのね」

「ああ… ちゃん。そういうば、昨夜何か見たのかな？」

また、あの時の笑顔で。

「なにを…ですか？」

「心当たりないの？そうだな…例えば、」

「君のお父さんが僕に殺される所とかね」

冷たくて重い氷の塊が胸を貫いたような気持ちになった。苦しく
て、悲しくて…現実を思い知つて。

「し…知りません」

震えた、か細い声で否定するもこんなに震えた声なのだから、気
付かない方がおかしいというものだ。彼は私の言葉など無視をして
言い放つた。

「殺されなくなつたら、黙つて言う事聞いてなさい？」

それは、お前の様な子供なんて簡単に殺せるんだぞと。見た事は
内に秘めたまま、言う事を聞いていればいいと…そういうことだっ
た。

小さくコクリと頷いた私に、最初の命令が下される。

「髪を切れ」

3年間かけて作り上げた、夢のロングヘアだった。

ここまで伸びた時に私がすごく嬉しかったのを、母は覚えているはずだった。唯一、理解してくれると思いい目をやると。

「…っ!？」

今まで、見た事もないような冷たい顔で私を見ていた。そして思った。

嗚呼、私を理解してくれる人はこの世にはいないのだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4083r/>

神を呼び戻す旅に

2011年10月8日20時27分発行